人の生活を意識した体験活動・比較を通した学び合いにより，自分と社会のつながりについての気付きを高める子ども

― 小学３年　もっと知りたい！ぼくらの住む町　松江市の実践から ―

１　単元のねらい

松江市の特色ある様子が見られる場所について，地形や土地利用，交通の様子，主な公共施設や建物の様子，人の様子，古い建造物などを地形的な条件や社会的な条件に着目しながら調査し，場所によって特色や違いがあることと，その理由について考えることができる。

２　授業の構想

(1) 子どものとらえについて

以下に示すふりかえりは，前単元の学習（附属小学校周りの探検）のまとめとして，児童Ａが学習を振り返って書いた文章である。

> ふぞく小学校のまわりをたんけんして，たくさん気づいたことがあります。東のほうは人通りの多いところで，西のほうは少なかったです。広い道路だと車がたくさん通っていて，新しいたてものやお店が多いことがわかりました。道路にはすべり止めみたいな，石のようなものがありました。昔からの家が多いところは細い道やうらの道みたいなところでした。古い井戸もみつけました。でもどうして，家が多いところは道がせまかったんだろう。調べてみたいです。またちがうところに行ってみたいです。（児童Ａ）

前単元の学習では附属小学校の周りの様子をとらえるため，町探検をしながら松江市の町並みの様子を地図にまとめていく活動を行った。この学習の中で子どもは，附属小学校の周りには交通量が多く，たくさんの店が並んでいるところ，神社や井戸，酒蔵など古くからある建物が残っていて，住宅がたくさんあるところを見付けた。見付けた町並みの特徴について話し合っていく中で，方角や場所によって町の様子に特徴があることも子どもが見付けることができた。また，店が集中している地域は道路が広く交通量が多いことや家が集中している地域は道路がせまいというように，社会的事象と関連付けて考える子どもの姿も少しずつ見られるようになってきた。しかし，現段階では場所による違いをとらえながらも，なぜ場所ごとに違いがあるのかというような理由を具体的に考えたり，多面的に考えたりすることが難しい子どももいる。そこで，本単元でも町探検という実感を伴う体験や，互いの考えを出し合い，見付けた事実をつなげたり，比較したりする話し合い活動を繰り返して行う。このような活動を通して社会的事象をより具体的，多面的に考える姿や，自分で新たな問いを見いだし，探ろうとする姿が期待できると考えた。

(2) 本単元の内容と社会科で考える追求する姿との関わりについて

本単元では前単元の小学校の周りの様子を調べる学習から範囲を広げ，自分たちの住んでいる松江市について調査したり，白地図に町並みの様子をまとめたりする。この学習を通して松江市は場所によって違いがあることを考える。松江市は南北に山間部が広がり，東西に中海と宍道湖がある。広く平らな土地が広がる田んぼが多い地域や，交通網の便利さから工場が集中している地域などもある。駅周辺や市街地は特に交通が発達しており，場所ごとによる町並みの様子の違いがわかりやすい。また，店や住宅が集まる地域が分かれており，人が集まるところと人が住んでいるところといった，人々の土地利用や生活もわかる。子どもたちにとっては普段の生活では行ったこともない地域があると予想される。前単元で学習した附属小学校の周りの様子と比べても，町並みの様子が全く違う地域もあり，本単元は子どもにとって新たな発見が多く，追求しやすいと考える。

そこで，本単元でも高いところから松江市を眺める活動や，町探検，見付けた事実を場所ごとや身近な地域と比較する話し合い活動を単元の構成に入れる。実際に見て，調べる体験を積み重ねることで，場所ごとの様子の違いについて問いをもち，自ら追求しようとする力を身に付けることができる。また，単元計画の中に話し合い活動を設定することで，普段の自分の生活と照らし合わせながら場所ごとの様子について考えたり，資料や体験をもとに根拠をもって自分の考えを伝えたりする力を伸ばすこともできる。そして，社会的事象と自分との関わりに気付き，社会的事象を自分のこととして，追求しようとする力を身に付けることができるだろう。

(3) 一人一人が問いをもち追求する姿を生み出すための手立てについて

本単元を展開するにあたって，「なぜこの場所はこんな様子なのだろう」といった問いや「こんな理由があるからだろう」といった人々の土地利用や生活を根拠にして自分の意見を伝えるような追求する姿を大切にする。そのために，子どもの松江市の様子に対する問いをもとにした単元を貫く課題を設定する。また，毎時間の学習で新しく分かったことや，不思議に思ったことを視点にふりかえりをして，子どもの問いを次時の学習につなげていく。

第１次では合銀ビルから松江市の中心付近の様子を眺める。前単元の学習をいかし，方角ごとの町並みの様子や交通網に視点を置いて，比較しながら見学を行う。その後，実際に見付けた特徴を話し合う。この話し合いの中で，子どもたちは合銀ビルから見えなかった地域についてはどんな様子なのかを知りたくなるだろう。そこで，第２次ではバスを使った町探検活動を行う。ここでは松江市の白地図をもとに実際に見てみたい場所を自分たちで決める。その際，地形だけでなく，生活している人々の様子にも着目しながら場所ごとの町並みの様子について予想を立てる。そうすることで場所ごとの様子の違いだけでなく，どうして違うのかという理由について考える視点をもちながら白地図にまとめることができる。第３次では町探検をして見付けた松江市の特徴的な場所についての話し合いを行う。ここでは，前単元でとらえた附属小学校の周りの様子と比較し，共通点や相違点を見付けていく。その際，場所の様子が共通しているところがあるのはなぜかと問いかけることで，場所ごとの違いが人々の土地利用や生活に理由があることについて意識をもてるようにする。第４次では，くにびき道路ができる以前の学園の様子がわかる資料を用意し，町並みの様子の違いとその理由についてさらに話し合いを行う。そして，時代によって人々の生活が変化することで場所の様子も変化することをとらえた上で，これからの松江市の町並みについて考えていく。このような学習過程を経ながら，松江市の様子と自分の生活との関わりについて気付くようにすることで，これからの自分の生活につなげていけるようにしたいと考えた。

３　展開計画　（全14時間）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容
1	学校の周りより遠くに見えるところはどんな様子なのだろう。	1 2・3 4	・前単元で作った学校の周りの地図や町探検を振り返り，お互いの生活体験を伝え合いながら，松江市の様子について考える。 ・合銀ビルから町を眺め，付近の様子を調べる。 ・市の中心付近の様子について伝え合う。
2	松江市の様子を知るために町探検に出かけよう。	5～8 9・10	・バスを利用し，松江市内を町探検に行く。 ・場所ごとに見付けた特徴を白地図にまとめる。
3	松江市ってどんな場所があるのだろう。	11 12	・見付けた特徴をもとに松江市にはどんな場所があるか話し合う。 ・学校周りの地図と比べながら共通点や相違点について考える。
4	松江市は場所ごとにどんなふうに変わっているのだろう。	13 14	・くにびき道路ができる前と現在の学園の様子を比べながら，町並みの様子が違う理由について考える。 ・だんだん道路の開通から，これからの松江市の変化を考える。

４　授業の実際（子どもの学びの様子と教師のはたらきかけ）

(1) 学校の周りより遠くに見えるところはどんな様子なのか調べる（第１時から第４時）

本単元は，前時に作成した附属小学校周りの地図をもとに，町の様子を振り返りながら，屋上からは見えなかったもっと遠くの町はどんな様子なのかを話し合うことから学習を始めた。すると，「車のお店がたくさんあるところがあった。」，「田和山の近くにはお店がたくさんあって，自分もよく行く。」，「自分の家の近くにお寺がたくさんあるところがあるよ。」といったような自分の生活経験を踏まえた意見がたくさん出てきた。一方で「あんまりわからない。」という意見も多くあった。そこで，子どもたちの意見をもとに「学校の周りよりもっと遠くのところはどんな様子のところがあるのだろう」というめあてを設定し学習を進めていった。めあてを設定した後，「どうやったら調べることができるだろうか」と問いかけた。すると，子どもたちからは前単元で学校の屋上から町を眺めたことから，「もっと高いところから眺めたら町の様子がわかるんじゃないかな」という意見や，前単元で実際に町を歩いて調べた経験をいかし，「バスで探検に行くとわかる。」という意見が出た。そこで，まず初めに松江市の市街地を一望できる山陰合同銀行本社ビルの14階から町の様子を方角ごとに調べる活動を行った。以下は第３時終了後の子どものふりかえりである。

> 今日，山陰合同銀行のビルに行って松江の様子を調べました。学校の屋上よりも高いから，遠くまでたくさん見ることができました。東西南北のところから見ると，それぞれ町の様子がちがっていておもしろかったです。東にはお寺や昔のたて物が多かったです。南にはJRの線路があって，たて物もたくさんありました。その近くには大きな道路も通っていて，車もたくさん走っていました。それからふしぎに思ったことはどの方角にも山があることです。山の先は見えませんでした。山の向こうはどうなっているだろう。もっと遠くの町や松江市全体の様子がわからないので調べたいです。　（児童B）

この活動を行ったことで，松江市の市街地も方角ごとの様子に特徴があることをとらえることができた。また児童Ｂのように「南には，ＪＲの線路があって，たて物がたくさんありました。・・・」のような建物の様子と交通とを関連付けて考える姿も見られた。一方で，「山の向こうはどうなっているの」，「もっと遠くの町や松江市全体の様子はわからない」という新たな疑問も生まれている。そこでさらに詳しく松江市の様子を調べるため，第１時において意見が出ていた，バスを利用した町探検に向けて計画を立てた。

(2) 松江市の様子をもっと詳しく調べるために町探検に出かける（第５時から第10時）

第４時で抱いた問いを解決するためにバスを利用した町探検を行うにあたり，松江市の地形図を見せながら，どこのルートを通って，どこの町を調べたら松江市の様子がわかるのかを話し合わせた。地形図を見ながら考えることで，地形の特徴や普段の生活経験を関連付けながら，町の様子の予想を立てることができる。また，自分たちで探検のルートを考えることで追求の意欲をさらに高められると考えたからである。子どもからは，「北の方角は山が多そうだら見てみたい。」，「日本海の近くの町は漁師が多そう。」といったような予想が出てきた。そこで，子どもたちの意見から探検のコースを決定し，探検に出かけた。

> ポイント①浜佐田町　ポイント②鹿島町　ポイント③島根町
> ポイント④八束町　ポイント⑤東松江　ポイント⑥東出雲町
> ポイント⑦田和山周辺の町

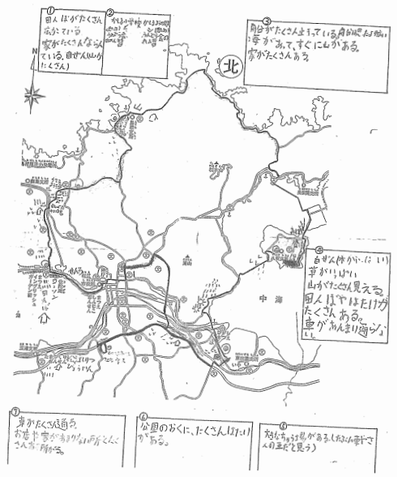

図１：子どもたちが考えたバス探検のルートと記録した白地図

図１に示した白地図のように探検では，予想をもとに場所ごとの様子について地図記号を使ったり，町の様子をメモしたりしてまとめることができた。以下は探検後のふりかえりである。

今日はバスで，松江のもっと広いところを見に行きました。前半に通った道は田んぼや畑，古い家が多かったです。田んぼで仕事をしている人がたくさんいました。島根町は周りに海が広がっていて，船がたくさんありました。ここでは新海丸にのりました。話を聞くと近くには漁師さんがたくさん住んでいることもわかりました。そのあとは東松江に行きました。ここは工場がたくさんありました。後半のバス探検では東出雲に行きました。東出雲の公園の近くには畑がたくさんありました。それからここは新しい家や大きなお店がたくさん建っていていました。だから広い道路もたくさんあって，車がたくさん通っていました。バス探検をしてみると，田んぼや畑が多く，自然が広がっているところと，お店や家が集まっているところがあることがわかりました。また，考えていきたいです。（児童Ｃ）

実際に町の様子を自分の目で確かめる町探検をしたことで，町の様子を理解するだけでなく，「前半に通った道は田んぼや畑，古い家が多かったです。田んぼで仕事をしている人がたくさんいました」のように，児童Ｃはそこで生活する人の様子についても気づくことができている。また，「家やお店がたくさん建っていました。だから広い道路もたくさんあって，車がたくさん通っていました。」というように場所の様子の特徴と人の生活が関係していると考えていることもうかがえる。場所の様子の特徴と人の生活を関連付けて自分なりの意味づけをすることは，本単元で目指す社会的な見方・考え方の一つである。また，以下は第10時のバスを利用した探検から松江市の場所ごとの様子の特徴を白地図にまとめた際の子どものふりかえりである。

今日は，自分でまとめた地図に色をぬっていきました。気づいたことは①，②ポイントは田んぼや畑など自然が多いこと，⑥，⑦ポイントは車がたくさん通っていて，お店や家がたくさんあることがにていました。松江には町の様子がにているところとちがうところがあることがわかりました。でもどうしてなのだろう。（児童Ｄ）

子どもたちはバス探検で発見したことを白地図に色分けしていくことで町の様子の特徴がわかった。その過程で「どうして町の様子が似ているところと違うところがあるのか」という新たな問いをもった。そこで，「どうしてそれぞれの町の様子が違うのだろう」という新たな追求意欲をもとに，第11時からはその問いについて話し合いを進めていった。

(3) なぜ場所ごとの様子に違いがあるのかを話し合う（第11時・第12時）

第11・12時では，場所ごとの様子が違う理由を考えるため，町の様子が特徴的である第１のポイント（浜佐田町）と第３のポイント（島根町）を題材に話し合いを行った。話し合いでは，地形をもとにして町の様子が違う理由を考えることができるよう各ポイントの航空写真を提示した。航空写真を活用することで，授業中の児童の発言では「浜佐田町は川もあるし，平らな土地が広がっているから田んぼが多く，米作りをしている」，「島根町は周りを海で囲まれているから，漁をするために船があるし港が多い」というような地形的な条件と関連付けて説明する姿が見られた。その後，町の様子が似ている第６のポイント（東出雲町），第７のポイント（田和山周辺）についても同様に話し合った。以下は第12時の学び合い後のふりかえりである。

今日，どうして町の様子がちがうのか話し合いました。ぼくは最初考えてみたらぜんぜんわかりませんでした。でも，みんなの発表を聞いていると，だんだんわかってきました。ぼくは町の様子のちがいには理由があるということがわかりました。①～②のポイントは山が多く自然が広がっていて，川もあるし土や水がいいから田んぼや畑がつくりやすいんじゃないかと思います。③のポイントは海が近いから港があって，漁師さんが多いのだと思います。それから⑤のポイントは工場が多かったけれど，船で運んだり，トラックで運んだりするからかなと思いました。⑥，⑦ポイントは附属小学校の周りの様子ととてもにてます。山も少なく，松江市の中心だから，人も多くて家やお店が広がっているんだと思います。でも（⑥と⑦のポイントは）まだほかの理由もあるかもしれないから考えたいです。（児童Ｅ）

このふりかえりのように子どもの多くが「町の様子の違いには理由がある」ということに気付くことができた。ここでは多くの子どもが「山が広がっているから田畑が多い」，「海が近いから港があり，漁が盛ん」というように地形的な条件に着目して土地の利用の仕方を考えていた。一方で児童Ｅの「工場が多かったけれど，船で運んだりトラックで運んだりするから」というように，交通という社会的な条件に目を向ける姿も見られた。そこで，土地利用の違う理由への気付きをさらに深めるため，白地図と航空写真を活用して学習を進めていった。

(4) 同じ町なのに，昔と今で違っているところがあるのはなぜかを考える（第13時）

本時では場所ごとの様子に違いがある理由をさらに多面的な視点から考えられるようにするため，**図２**のように附属小学校周りの様子がわかる航空写真をもとに現在と40年前を比較しながら話し合いを進めた。また**表１**は子どもたちが航空写真を見ながら，方角ごとに比較した現在と40年前の町の様子の特徴である。

図２：40年前と現在の附属小学校の周りの様子（航空写真）

表１：初めに子どもが気付いた附属小学校の東西の様子の特徴

附属小より西側（大輪町）		附属小より東側（学園）
・町の様子はほとんど変わっていない。 ・昔も今も家が多く集まっている。	町の様子	・町の様子が変わっている。 ・昔は田んぼのところが今がお店や家になっている。

表２のように現在と過去の町の様子を比較することで，町の様子が変わっていないところ（西側）と町の様子が変わっているところ（東側）があることについて整理できた。その後，「どうしてだろう」と問いかけたが，なかなか反応がなかった。そこで，子どもたちの問いをもとに「どうして昔と今で同じところと違うところがあるのだろう」というめあてを提示した後，話し合いを進めていった。その話し合いの様子は右のとおりである。話し合いの中では道路に着目した子どもの発言をもとにＴ３，Ｔ４のように道路に線を引くように，子どもにはたらきかけた。このようなはたらきかけによって道路の数や様子における変化に気付くことができると考えたからである。実際に子どもたちは道路に線を引くことで，現在の東側の学園は道路の幅が広がっていたり，田んぼが道路に変わったりしたことをとらえることができた。また西側の大輪町は道路の場所や幅も変わっていないことをとらえることができた。そして，「道路ができることは，その道路を必要とする人がいるといるから」という児童Ｍの発言を受け，Ｔ６のように子どもの意見を掘り下げるようにはたらきかけた。すると，児童Ｐの発言のように交通と人の生活とを関連付けて考える子どもが多く見られた。以下は第13時の話し合いの後のふりかえりである。

Ｔ１　：昔と今で同じところと違っているところがあるのはなぜだろう。
児童Ｆ：昔のほうは田んぼと家を分けていた。
児童Ｇ：道路は昔も今もある。
Ｔ２　：プリントを二つ折りにしてみよう。どうですか。
児童Ｈ：家がたくさんあるところは道路がよく見える。
Ｔ３　：道路があるところに線を引いてごらん。
児童Ｉ：今ある道は昔は細くて大きくない。
児童Ｊ：昔は田んぼがあって別のところもある。
Ｔ４　：西側（の道路に）に線を引いてみよう。
児童Ｋ：40年前と同じで道が同じところにある。
児童Ｌ：西側では道の大きさや場所が同じだ。
Ｔ５　：道路ができたら町の様子が変わるの？
児童Ｍ：それを必要とする人がいるから。
Ｔ６　：どんな人が車を使うのだろうか。
児童Ｎ：お店に行く人や（家から）遠いところに行く人
児童Ｏ：東側は人が住んだり，物を売ったりするところになったんだ。

今日，昔と今で同じところとちがうところがあるのはなぜか考えました。小学校の西側は今とほとんど同じで家がたくさんありました。道路の場所がそのままだったり，川の場所も変わっていませんでした。でも，東側はちがっていて，昔は田んぼだったところが家やお店にかわっていて，道路もたくさんできていました。車が通れる道路があるのは，通学でつかうバスだったり，仕事に行く人が車で行くためにつかうからです。道路が多いと交通量が増えるし，便利になるからお店や家も増えたんだと思います。わたしはこれからも町はかわると思います。（児童Ｐ）

これまで町の様子の違いについて地形的な条件と関連付けて考えてきた子どもたちが，道路に着

目しながら過去と現在の町の様子を比較することで，子どもたちは土地利用の違いは道路や交通，人々の生活といった社会的な条件が関係していることにも気付くことができた。また児童Pは「これからも町はかわると思う」というように，これからの松江市の未来の土地利用についても意識を向けることができた。

(5) 松江市でこれから町の様子が変わりそうなところを考えて伝え合う。（第13時・第14時）

土地利用の違いや変化が地形的な条件や社会的な条件が関係しているという子どもたちの気付きをいかし，だんだん道路の開通を一つの視点として松江市でこれから町の様子が変わりそうなところを考えた。以下は話し合いで出た子どもたちの意見である。これまでの学習で町の様子に関係する地形的な条件や社会的な条件を踏まえた意見を多く見ることができた。

○だんだん道路ができたことで交通量が増えるから，本庄や持田のあたりに家やお店が増えると思う。
○田和山周辺は交通量が増えて人が集まるから，もっとお店が増えると思う。
○鹿島町は広い土地が広がっているから，今後は畑だけでなくもっと家ができると思う。

5　おわりに

(1) 単元全体の構成・体験活動について

本実践は，地形的な条件や社会的な条件に着目しながら，松江市の特色や違い，その理由について考える姿を目指し学習を進めていった。具体的事実から自分なりの意味付けをする活動を通して，社会の見方・考え方を養うため，今回は山陰合同銀行本社ビルの見学やバスを使った町探検を単元の構成に入れた。このような体験活動を繰り返し行ったことで，自分たちで調べる方法や計画を話し合い，子どもが主体的に追求できる活動になった。教師が設定しためあてではなく，子どもの問いから次時のめあてがうまれ，課題解決する学習を通してまた次の問いがうまれるといったサイクルで学習を進めることができたことは，子どもの追求が続く要因であった。また，バスを使った町探検では，実際に町の様子を目で見ることで写真ではわからない地形の様子や交通の様子を知ることができた。そして，人に出会うことで，町で生活する人の様子についても気付き，町の様子と社会的条件との関連についても考えることができた。小学３年生という発達段階において直接体験がもたらす気付きや学びはとても大きい。そして気付きや学びが増えるほど，子どもの主体的な追求が高まり，教師がねらう単元の目標にもさらに迫ることができると考える。一方で，限られた時間の中で見学や体験活動をどのように位置づけるのかについてはさらに考える必要がある。今回のバスを使った町探検では教師が各町において気付かせたい特徴をもっていたが，場所によってはその気付きが薄くなることもあった。事前の指導だけでなく，例えばその場において「交通について気付くことはあるか」，というような視点をしぼったはたらきかけが必要であったと考えている。

(2) 学び合いの場面でのはたらきかけ・資料の利用について

第13時では，町の様子を比較するために航空写真を使い現在と過去を比較した。資料として使った40年前の航空写真は，現在の町の様子を知っている子どもたちにとって，意外性があり，あっと驚くものであった。その違いについて理由を考えていったことは単元のねらいに迫ることができただけでなく，子どもたちの主体的な追求にもつながったといえる。一方で，今回はプロジェクターを利用して航空写真を提示したが，子どもたちにとっては比較しにくいものだった。拡大写真や白地図など，書き込みができるもの，子どもが簡単に比べられるような資料や提示の方法の検討が課題である。また，今回は子どもの問いをもとに学習のめあてを設定したが，２つの方向性をもった学習内容となり，子どもの考えが拡散した。子どもの追求や発言を大切にしながらも，各単元，毎時間の授業でねらう社会科としてのねらいにいかにつなげて学習を進めるのか，今後も実践を重ねて考えていきたい。

（文責　藤原　良平）